

景況調査

報告書

No. 104

令和6年7月～9月
令和6年10月～12月

実績
見通し



蒲郡商工会議所
中小企業相談所

令和6年度第2四半期(令和6年7月～9月)景況調査

1. 調査時点 令和6年10月1日～10月25日

2. 調査対象

(1) 対象地区 蒲郡市内
 (2) 対象(回答)企業 94 [87 企業、7団体] 三河織物工業(協)、中部繊維ローブ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法

聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	42 (3)	7 (2)	12 (1)	17	9 (1)	7	94 (7)

※ ()は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前期比では-14.9、前期実績(-3.4)に比較すると-11.5ポイントと下降の傾向が見られ、前年同期比では、-9.6、前期実績(-16.6)に比較すると7.0ポイントと上昇の傾向が見られた。売上DI値は、前期比で-2.1、前期実績(4.4)と比較すると-6.5ポイントと下降の傾向が見られた。収益DI値は、前期比で-12.7、前期実績(-17.8)と比較すると5.1ポイントと横バイの傾向が見られた。総合判断来期見通しは-10.7、今期の実績(全業種(当期実績)前期比-14.9)と比較すると4.2ポイントと横バイの傾向が見られた。

「製造業」のうち食料品は売上では前年同期比上昇も前期比では下降。前期比では売上・採算ともに悪化。コストアップ・インフレ傾向による価格転嫁の課題と、消費者の節約志向の影響がみられる。織物はインテリアの動きは、販売先の二極化が進んでおり、有望な取引先・分野に向けた企画力・提案力を強化する必要がある。漁網・ローブは生産量・販売数量・金額とも前年対比減少で低調。鉄工のうち工作機械関連では、日本工作機械工業会の受注総額は7月1,219億円、8月1,095億円、9月1,234億円。7月は内需外需とも対前年比を超えたが、8～9月にかけて対前年比で5%程度下回る。自動車関連は、トヨタ自動車認証不正等に続く稼働停止、安全性を重視した生産抑制の影響があり、当初の想定より低調な水準で推移した。化学工業は輸出向けでは中国市況の不安定さにより、中国向け輸出数量が低迷。また値下げ要望が強くなった。プラスチックは円安傾向もあり原材料費が高止まりしている。製品価格値上げ活動を継続しているが、業界全体では供給過剰になっており、汎用的製品の価格転嫁は難しい状況。

「建設業」は公共工事、民間工事共に順調に受注しているが、施工管理人員の不足により受注機会を逸している。

「卸売業」のうち、繊維卸は<産業資材>車両用基布の7～9月期は前期同様落ち込んだ状態が続く。不正問題による生産停止の影響が継続しているように思われる。他の資材用途は全商材で低調な動きで低位安定の状況が続く。<インテリア>7～8月は猛暑の影響で一定の需要はあったが全体的に消費は鈍い状況。売上と在庫のバランスに注意した。9月から冬物の導入も暖冬傾向で不透明な状況。<アパレル>円安によりコストアップで売上不振

「小売業」はインフレによる消費意欲減退+コストアップの価格転嫁が十分でなく収益が伸び悩んだ状況が多く訴えられている。飲食は夏季の家族・団体需要が増加する時期にあり、売上収益とも増加・上昇傾向が出た。石油等その他小売は原油価格(WTI期近物)は、需給バランスが均衡する状況で80ドル台から緩やかに下落し70ドル前後で推移した。

「サービス業」のうち旅館関係は夏季の最繁忙期だが対前年比で総合的に伸び悩んだ。7月は例年通りも、8月は南海トラフ地震臨時情報以降にキャンセルが相次ぎ、9月は地震への警戒感と猛暑の影響が数字が戻らなかった。団体利用よりも個人客が多い傾向が続く。

「運輸通信業」 貨物輸送では物流では経済・特に製造業の鈍さの影響で、貨物量が減少。また労働時間管理(残業規制)の強化で、人手不足感の解消が業界的な課題となつ設備投資状況は、42事業所(63件)で設備投資が実施され「生産設備(34.9%)」等に投資された。来期は31事業所(40件)が「生産設備(35%)」等の設備投資を計画している。

経営上の問題点は、売上の停滞・減少、利幅の縮小、原材料(燃料)高、人手不足、人件費の増加、が項目別で上位を占めている。

当地区において 令和6年度第2四半期は、前年同期比・前期比ともに売上に比べ収益の悪化を訴える声が10～20ポイント程度多く見られた。業種毎では、製造業は前年同期より前期比の低下傾向が強く自動車業界の認証不正問題の影響も感じられた。建設業は一定の仕事量はある反面、技術者・人手不足による機会損失が課題。卸売業・小売では消費意欲低迷の他、コストの価格転嫁に苦戦。サービス業は夏季の需要期で活況ではあるが、消費意欲低迷の影響も。運輸通信業は荷動き全体の低調に人手不足感も加わり不透明な状況となった。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

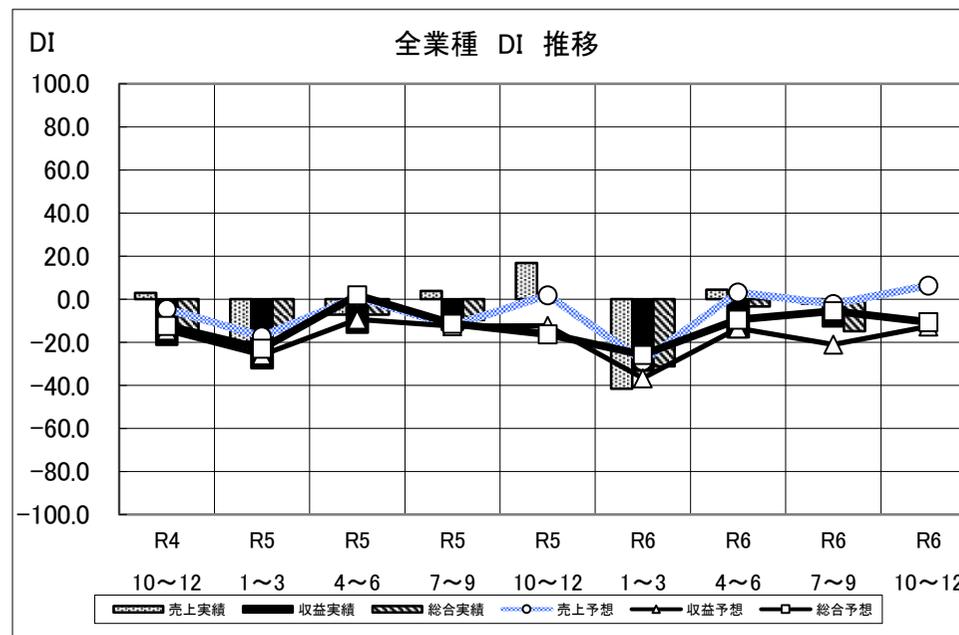
<全業種 各項目別期推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年7月～9月 に比べて	前期比 令和6年4月～6月 に比べて	来期見通し 令和6年10月～12月 の見通し	売上		収益		総合判断			
				前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し	
①生産額・売上額	-4.2	-2.1	6.3	R5.7～9月実績	9.6	3.8	-19.0	-14.3	-6.8	-9.7	-16.3
②製品・商品在庫	-11.0	-14.3	-7.7	R5.10～12月実績	3.0	16.8	-9.9	0.0	-9.9	0.0	-25.8
③資金繰り	-4.2	-8.5	0.0	R6.1～3月実績	-19.8	-41.6	-31.2	-33.3	-21.9	-31.2	-9.4
④採算(収益)	-23.1	-12.7	-12.7	R6.4～6月実績	-5.6	4.4	-25.6	-17.8	-16.6	-3.4	-5.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-2.1	5.3	R6.7～9月実績	-4.2	-2.1	-23.1	-12.7	-9.6	-14.9	-10.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-9.6	-14.9	-10.7								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物 輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	2.9	-19.8	-7.2	3.8	16.8	-41.6	4.4	-2.1	6.3
収益	-21.2	-32.1	-15.6	-14.3	0.0	-33.3	-17.8	-12.7	-12.7
総合	-15.4	-15.0	-7.2	-9.7	0.0	-31.2	-3.4	-14.9	-10.7

◎DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数)について

DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合-減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)-(減少)
 製品・商品在庫 :DI=(減少)-(増加)
 資金繰り :DI=(好転)-(悪化)

採算(収益) :DI=(上昇)-(下降)
 従業員数 :DI=(増加)-(減少)
 業況(総合判断):DI=(好転)-(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き
 DIが0 ⇒ 景気横ばい
 DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上

DI 6~49%

DI 5~-5%



DI -6~-49%

DI -50%以下



6. 業種別報告

製造業

売上DI値は-18.6、前期実績(4~6月期15.0)に比して-33.6ポイントの下降、収益DI値は-25.6、前期実績(4~6月期-15.4)に比して-10.2ポイントの下降、総合判断DI値は-14.3、前期実績(4~6月期5.1)に比して-19.4ポイントの下降となった。

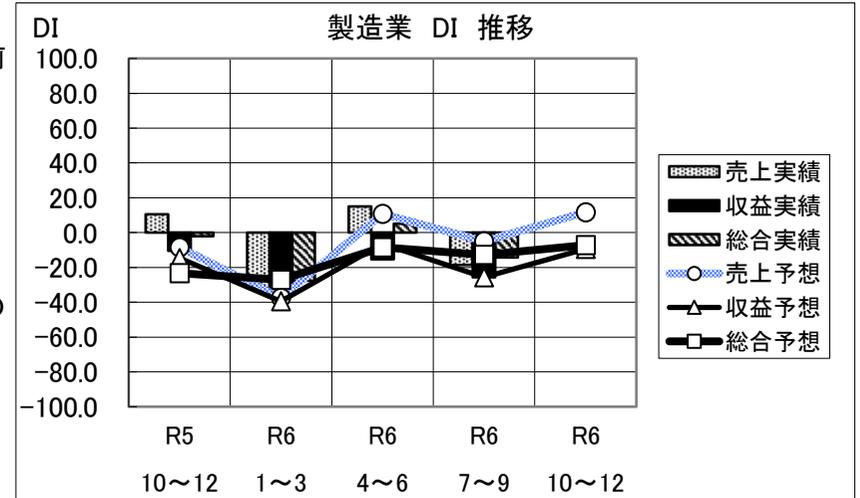
向こう3カ月の見通し

売上DI値は11.7ポイントの上昇、収益DI値は-9.3ポイントの下降、総合判断DI値は-7.2ポイントの下降となっている。

製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年7月~9月 に比べて	前期比 令和6年4月~6月 に比べて	来期見通し 令和6年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	-6.9	-18.6	11.7
②製品・商品在庫	-9.3	-11.6	-4.6
③資金繰り	-9.3	-11.6	-2.3
④採算(収益)	-27.9	-25.6	-9.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	2.4	-2.3	2.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-14.3	-14.3	-7.2



<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	10.5	-31.9	15.0	-18.6	11.7
収益	-10.4	-31.9	-15.4	-25.6	-9.3
総合	-2.1	-27.6	5.1	-14.3	-7.2

[食料品]

売上DI値は-42.8、前期実績(4~6月期80.0)に比して-122.8ポイントの下降、収益DI値は-57.1、前期実績(4~6月期40.0)に比して-97.1ポイントの下降、総合判断DI値は-42.9、前期実績(4~6月期20.0)に比して-62.9ポイントの下降となった。売上では前年同期比上昇も前期比では下降。前期比では売上・採算ともに悪化。コストアップ・インフレ傾向による価格転嫁の課題と、消費者の節約志向の影響がみられる。

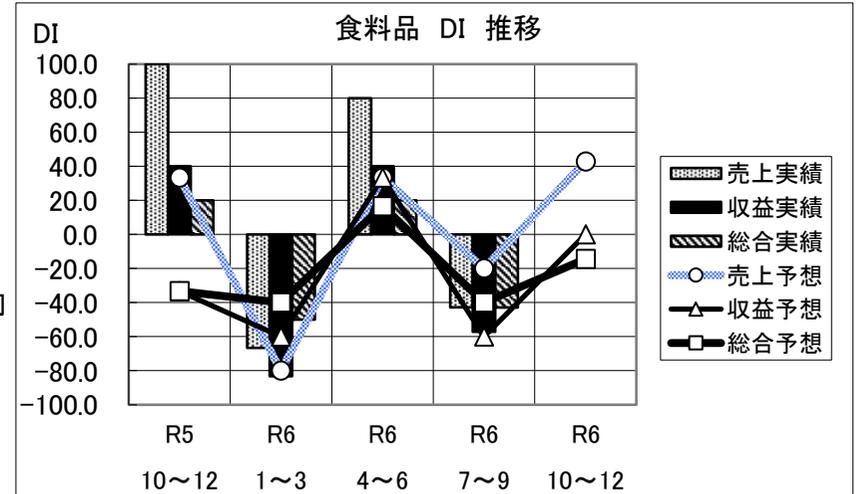
向こう3カ月の見通し

売上DI値は42.8ポイントの上昇、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は-14.3ポイントの下降となっている。原材料高等のコストアップによる利益縮小に懸念が示された。インフレ傾向の長期化のもと商品・価格戦略の重要性が高まっている。

(食料品)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年7月~9月 に比べて	前期比 令和6年4月~6月 に比べて	来期見通し 令和6年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	42.9	-42.8	42.8
②製品・商品在庫	0.0	-14.3	14.3
③資金繰り	-14.3	0.0	0.0
④採算(収益)	-14.3	-57.1	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-14.3	0.0	28.6
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	-42.9	-14.3



<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	100.0	-66.6	80.0	-42.8	42.8
収益	40.0	-83.3	40.0	-57.1	0.0
総合	20.0	-50.0	20.0	-42.9	-14.3

【織物】

売上DI値は0.0、前期実績(4~6月期-50.0)に比して50.0ポイントの上昇、収益DI値は-33.3、前期実績(4~6月期0.0)に比して-33.3ポイントの下降、総合判断DI値は-33.3、前期実績(4~6月期50.0)に比して-83.3ポイントの下降となった。インテリアの動きは、販売先の二極化が進んでおり、有望な取引先・分野に向けた企画力・提案力を強化する必要がある。

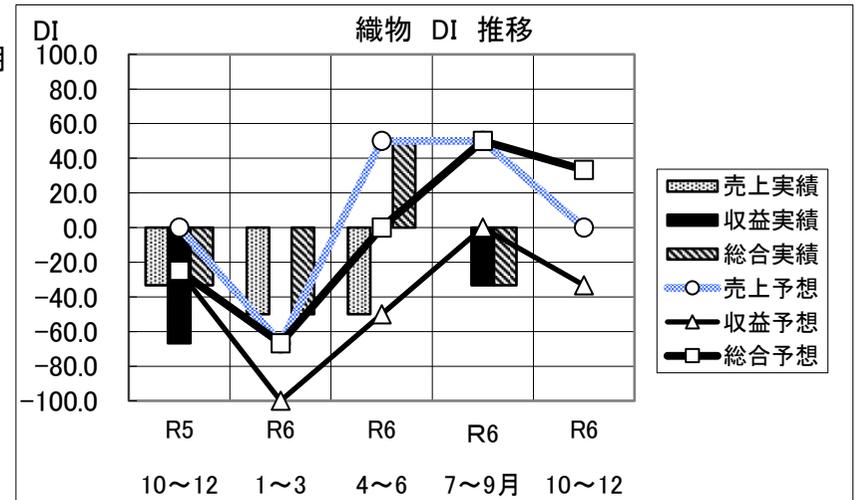
向こう3カ月の見通し

売上DI値は0.0ポイントの横バイ、収益DI値は-33.3ポイントの下降、総合判断DI値は33.3ポイントの上昇となっている。荷動きが不透明で、独自の販路開拓や設備投資計画にも注意が必要。

(織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年7月~9月 に比べて	前期比 令和6年4月~6月 に比べて	来期見通し 令和6年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	0.0	0.0
②製品・商品在庫	-33.3	-33.3	-33.3
③資金繰り	0.0	-33.3	-33.3
④採算(収益)	-66.7	-33.3	-33.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	-33.3	33.3



<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-33.3	-50.0	-50.0	0.0	0.0
収益	-66.7	0.0	0.0	-33.3	-33.3
総合	-33.3	-50.0	50.0	-33.3	33.3

【漁網・ロープ】

売上DI値は-33.4、前期実績(4~6月期0.0)に比して-33.4ポイントの下降、収益DI値は-33.4、前期実績(4~6月期-60.0)に比して26.6ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0、前期実績(4~6月期-40.0)に比して40.0ポイントの上昇となった。生産量・販売数量・金額とも前年対比減少で低調。

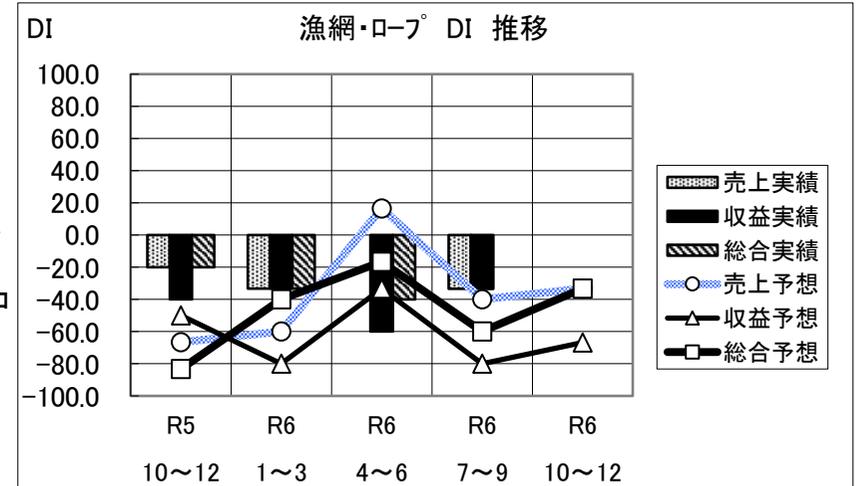
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-33.3ポイントの下降、収益DI値は-66.7ポイントの下降、総合判断DI値は-33.3ポイントの下降となっている。10~11月に製品値上する企業もあるが駆け込み需要による先食いを懸念。今夏の異常気象で養殖のへい死、魚潮による低地・養殖施設被害も発生。電気料金・輸送コスト上昇もあり厳しい状況が続く。

(漁網・ロープ)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年7月~9月 に比べて	前期比 令和6年4月~6月 に比べて	来期見通し 令和6年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	66.7	-33.4	-33.3
②製品・商品在庫	0.0	-33.3	0.0
③資金繰り	33.3	0.0	0.0
④採算(収益)	0.0	-33.4	-66.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	33.3	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	0.0	-33.3



<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-20.0	-33.3	0.0	-33.4	-33.3
収益	-40.0	-33.3	-60.0	-33.4	-66.7
総合	-20.0	-33.3	-40.0	0.0	-33.3

【鉄工】

売上DI値は-5.2、前期実績(4～6月期33.4)に比して-38.6ポイントの下降、収益DI値は-15.8、前期実績(4～6月期-14.3)に比して-1.5ポイントの横バイ、総合判断DI値は-11.1、前期実績(4～6月期6.6)に比して-17.7ポイントの下降となった。工作機械関連では、日本工作機械工業会の受注総額は7月1,219億円、8月1,095億円、9月1,234億円。7月は内需外需とも対前年比を超えたが、8～9月にかけて対前年比で5%程度下回る。自動車関連は、トヨタ自動車認証不正等に続く稼働停止、安全性を重視した生産抑制の影響があり、当初の想定より低調な水準で推移した。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は10.5ポイントの上昇、収益DI値は15.7ポイントの上昇、総合判断DI値は5.6ポイントの横バイとなっている。季節需要による増加もあるが、工作機械業界全体は受注が停滞し踊り場となっている。自動車関係では、トヨタグループの日当たり生産台数は13,000台中盤とやや落ち着いた水準で推移する見通し。足元では業界の構造変化も受けて二極化が更に進む見込み。

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年7月～9月 に比べて	前期比 令和6年4月～6月 に比べて	来期見通し 令和6年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-21.0	-5.2	10.5
②製品・商品在庫	-15.8	-15.8	-15.8
③資金繰り	-21.0	-21.0	0.0
④採算(収益)	-26.3	-15.8	15.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	5.2	5.3	-5.2
⑥貴社の業況(総合判断)	-22.2	-11.1	5.6

【化学・プラスチック】

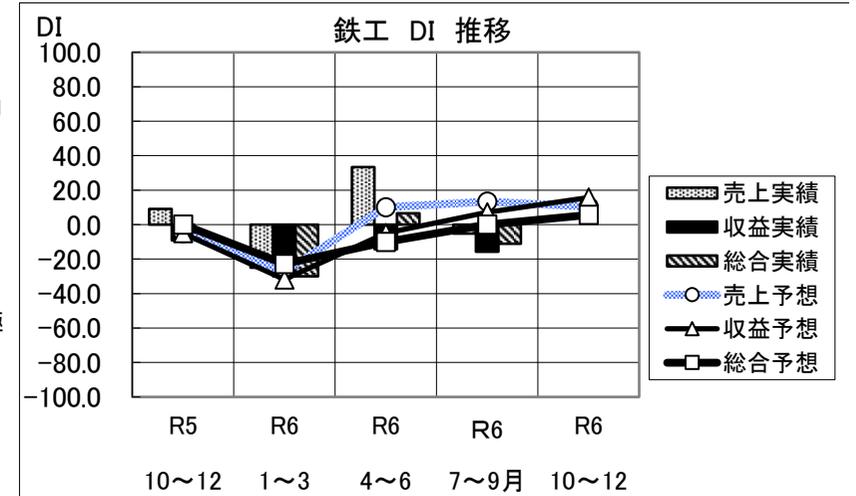
売上DI値は-16.6、前期実績(4～6月期20.0)に比して-36.6ポイントの下降、収益DI値は-16.6、前期実績(4～6月期20.0)に比して-36.6ポイントの下降、総合判断DI値は16.6、前期実績(4～6月期50.0)に比して-33.4ポイントの下降となった。<化学>輸出向けでは中国市況の不安定さにより、中国向け輸出数量が低迷。また値下げ要望が強くなった。<プラスチック>円安傾向もあり原材料費が高止まりしている。製品価格値上げ活動を継続しているが、業界全体では供給過剰になっており、汎用的製品のコスト転嫁は難しい現況。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は33.3ポイントの上昇、収益DI値は-16.6ポイントの下降、総合判断DI値は0.0ポイントの横バイとなっている。<化学>今期と同様の見込み<プラスチック>原油価格の下落等で原材料費が若干低下傾向+販売価格の値上げで採算性は多少改善の見通しも、中国景気後退の影響で数量的な増加は期待薄。諸経費の増加もあり収益性は総合的にインフレ率に届かず。

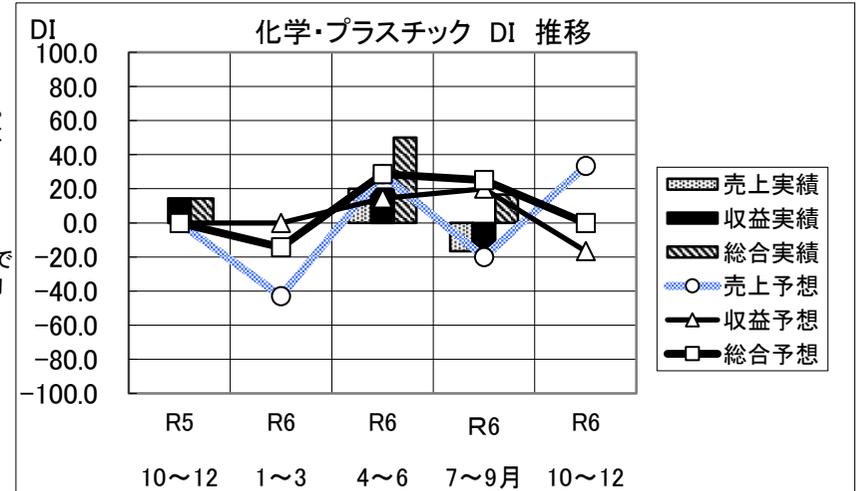
(化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年7月～9月 に比べて	前期比 令和6年4月～6月 に比べて	来期見通し 令和6年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-50.0	-16.6	33.3
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-50.0	-16.6	-16.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	16.6	-16.7	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-33.3	16.6	0.0



<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	9.1	-25.0	33.4	-5.2	10.5
収益	-9.1	-30.0	-14.3	-15.8	15.7
総合	0.0	-30.0	6.6	-11.1	5.6



<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	0.0	0.0	20.0	-16.6	33.3
収益	14.3	0.0	20.0	-16.6	-16.6
総合	14.3	0.0	50.0	16.6	0.0

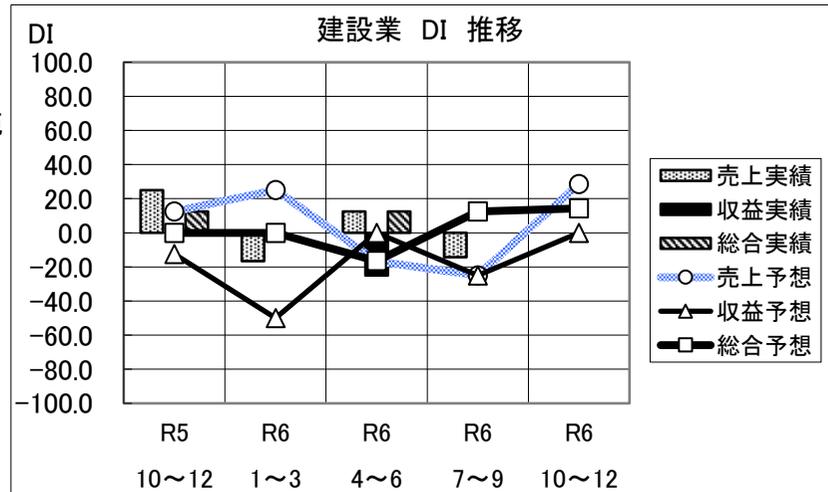
建設業

売上DI値は-14.3、前期実績(4~6月期12.5)に比して-26.8ポイントの下降、収益DI値は0.0、前期実績(4~6月期-25.0)に比して25.0ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0、前期実績(4~6月期12.5)に比して-12.5ポイントの下降となった。公共工事、民間工事共に順調に出件しているが、施工管理人員の不足により受注機会を逸している。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は28.6ポイントの上昇、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は14.3ポイントの上昇となっている。公共工事、民間工事共に順調に出件されると予想。

建設業		(DI 単位:%)		
	前年同期比 令和5年7月~9月 に比べて	前期比 令和6年4月~6月 に比べて	来期見通し 令和6年10月~12月 の見通し	
①生産額・売上額	-28.6	-14.3	28.6	
②製品・商品在庫	-16.7	-16.7	0.0	
③資金繰り	0.0	0.0	0.0	
④採算(収益)	0.0	0.0	0.0	
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-14.3	-14.3	14.3	
⑥貴社の業況(総合判断)	28.6	0.0	14.3	



<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	25.0	-16.6	12.5	-14.3	28.6
収益	0.0	0.0	-25.0	0.0	0.0
総合	12.5	0.0	12.5	0.0	14.3

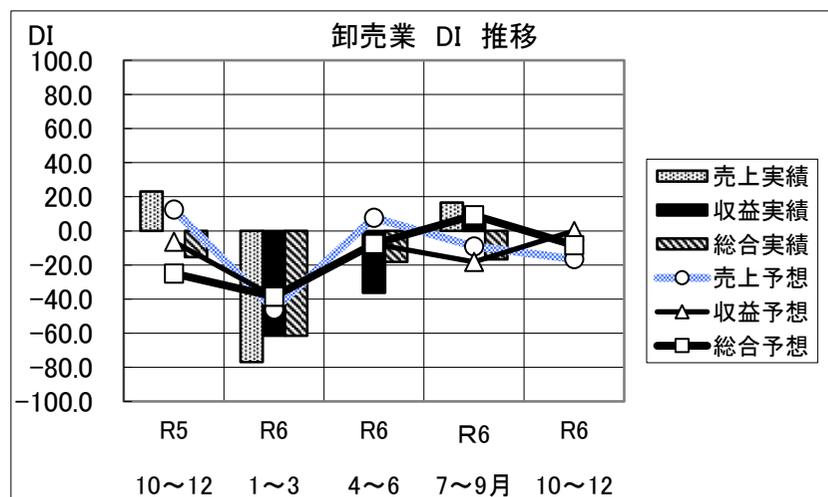
卸売業

売上DI値は16.6、前期実績(4~6月期0.0)に比して16.6ポイントの上昇、収益DI値は8.3、前期実績(4~6月期-36.3)に比して44.6ポイントの上昇、総合判断DI値は-16.7、前期実績(4~6月期-18.2)に比して1.5ポイントの横バイとなった。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は-16.6ポイントの下降、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は-8.4ポイントの下降となっている。

卸売業		(DI 単位:%)		
	前年同期比 令和5年7月~9月 に比べて	前期比 令和6年4月~6月 に比べて	来期見通し 令和6年10月~12月 の見通し	
①生産額・売上額	-16.7	16.6	-16.6	
②製品・商品在庫	-36.4	-36.4	-18.2	
③資金繰り	8.4	0.0	16.7	
④採算(収益)	-16.6	8.3	0.0	
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-8.3	-8.3	8.3	
⑥貴社の業況(総合判断)	-16.6	-16.7	-8.4	



<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	23.1	-76.9	0.0	16.6	-16.6
収益	0.0	-61.5	-36.3	8.3	0.0
総合	-15.4	-61.5	-18.2	-16.7	-8.4

[繊維卸]

売上DI値は9.1、前期実績(4~6月期-10.0)に比して19.1ポイントの上昇、収益DI値は0.0、前期実績(4~6月期-50.0)に比して50.0ポイントの上昇、総合判断DI値は-27.3、前期実績(4~6月期-30.0)に比して2.7ポイントの横バイとなった。<産業資材>車両用基布の7~9月期は前期同様落ち込んだ状態が続く。不正問題による生産停止の影響が継続しているように思われる。他の資材用途は全商材で低調な動きで低位安定の状況が続く。<インテリア>7~8月は猛暑の影響で一定の需要はあったが全体的に消費は鈍い状況。売上と在庫のバランスに注意した。9月から冬物の導入も暖冬傾向で不透明な状況。<アパレル>円安によりコストアップで売上不振

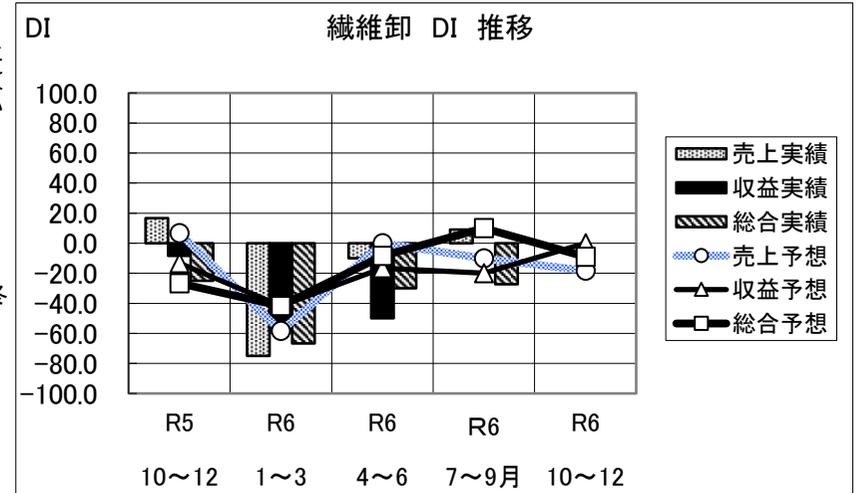
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-18.2ポイントの下降、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は-9.1ポイントの下降となっている。<産業資材>車両用基布は今期同様に低調で、他資材用途も同様に厳しい見込み。<インテリア>暖冬傾向にあり冬物の荷動きは鈍い状況。12月の繁忙期も昨年対比では厳しい予想。<アパレル>売上不振が継続する

(繊維卸)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年7月~9月 に比べて	前期比 令和6年4月~6月 に比べて	来期見通し 令和6年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	-27.2	9.1	-18.2
②製品・商品在庫	-40.0	-40.0	-20.0
③資金繰り	0.0	-9.1	9.1
④採算(収益)	-27.3	0.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-9.1	-9.1	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-27.3	-27.3	-9.1



<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	16.7	-75.0	-10.0	9.1	-18.2
収益	-8.3	-58.3	-50.0	0.0	0.0
総合	-25.0	-66.7	-30.0	-27.3	-9.1

小売業

売上DI値は23.6、前期実績(4~6月期-38.4)に比して62.0ポイントの上昇、収益DI値は-5.9、前期実績(4~6月期-53.8)に比して47.9ポイントの上昇、総合判断DI値は-11.7、前期実績(4~6月期-38.5)に比して26.8ポイントの上昇となった。インフレによる消費意欲減退+コストアップの価格転嫁が十分でできず収益が伸び悩んだ状況が多く訴えられている。

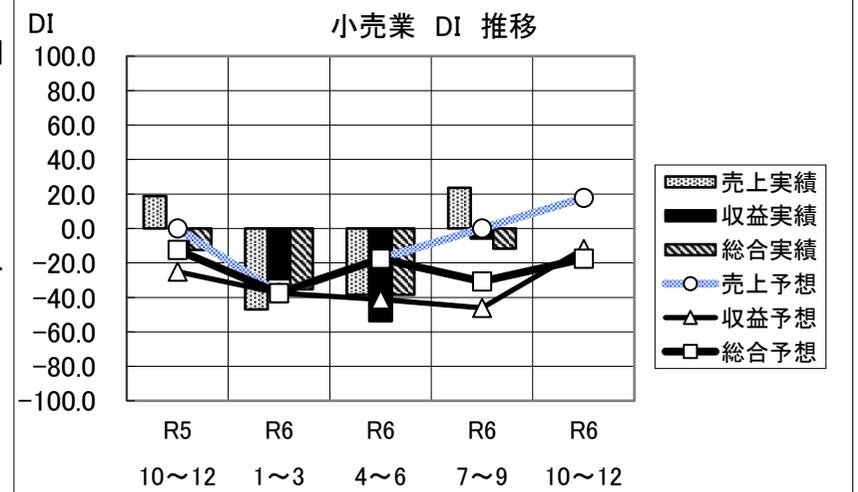
向こう3カ月の見通し

売上DI値は17.7ポイントの上昇、収益DI値は-11.8ポイントの下降、総合判断DI値は-17.6ポイントの下降となっている。円安・インフレ等による消費意欲の低迷が懸念材料も、年末年始の繁忙期の消費意欲高揚による需要増に期待。

小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年7月~9月 に比べて	前期比 令和6年4月~6月 に比べて	来期見通し 令和6年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	23.6	17.7
②製品・商品在庫	-18.8	-6.2	-6.2
③資金繰り	-5.9	0.0	11.7
④採算(収益)	-23.6	-5.9	-11.8
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-5.9	-11.7	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-11.8	-11.7	-17.6



<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	18.8	-47.0	-38.4	23.6	17.7
収益	0.0	-29.4	-53.8	-5.9	-11.8
総合	-12.5	-35.3	-38.5	-11.7	-17.6

【飲食】

売上DI値は50.0、前期実績(4~6月期0.0)に比して50.0ポイントの上昇、収益DI値は50.0、前期実績(4~6月期0.0)に比して50.0ポイントの上昇、総合判断DI値は50.0、前期実績(4~6月期0.0)に比して50.0ポイントの上昇となった。夏季の家族・団体需要が増加する時期にあり、売上収益とも増加・上昇傾向が出た。

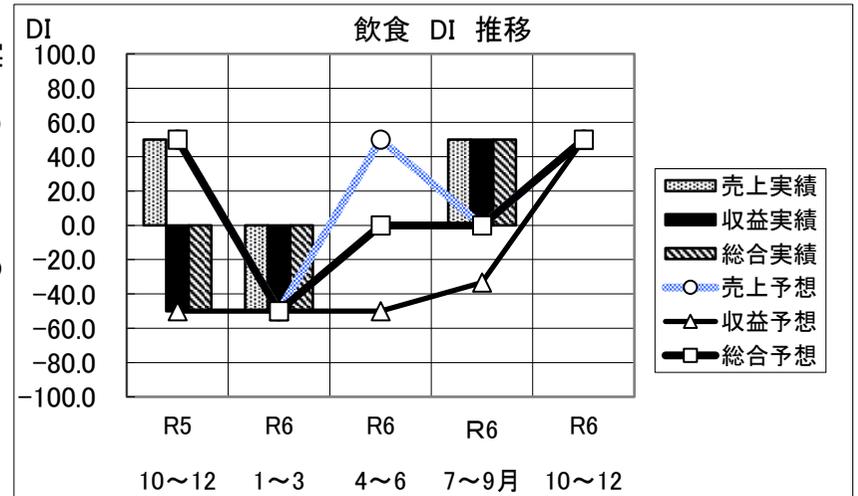
向こう3カ月の見通し

売上DI値は50.0ポイントの上昇、収益DI値は50.0ポイントの上昇、総合判断DI値は50.0ポイントの上昇となっている。年末の繁忙期を迎えて団体等の宴会を期待。ただし全体的には小グループ化が進む。

(飲食)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年7月~9月 に比べて	前期比 令和6年4月~6月 に比べて	来期見通し 令和6年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	100.0	50.0	50.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	50.0
④採算(収益)	0.0	50.0	50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	50.0	50.0	50.0
⑥貴社の業況(総合判断)	100.0	50.0	50.0



<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	50.0	-50.0	0.0	50.0	50.0
収益	-50.0	-50.0	0.0	50.0	50.0
総合	-50.0	-50.0	0.0	50.0	50.0

【石油等その他小売】

売上DI値は28.6、前期実績(4~6月期-66.7)に比して95.3ポイントの上昇、収益DI値は14.3、前期実績(4~6月期-66.7)に比して81.0ポイントの上昇、総合判断DI値は-14.3、前期実績(4~6月期-66.7)に比して52.4ポイントの上昇となった。原油価格(WTI期近物)は、需給バランスが均衡する状況で80ドル台から緩やかに下落し70ドル前後で推移した。

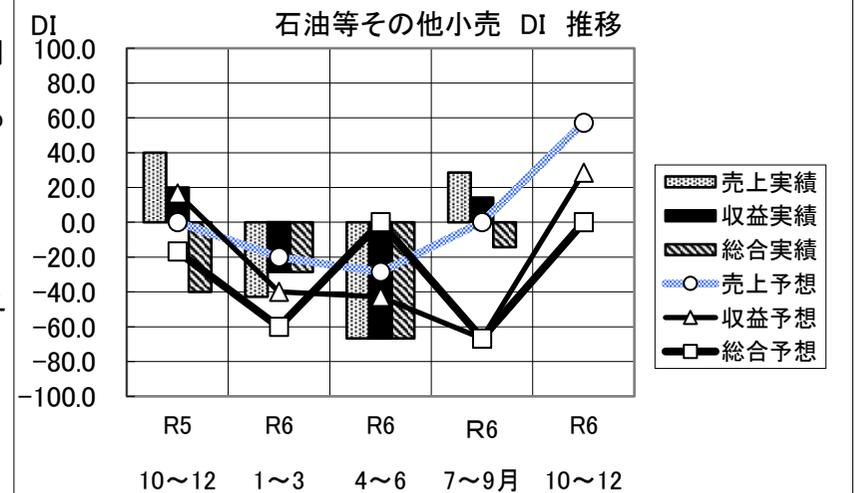
向こう3カ月の見通し

売上DI値は57.1ポイントの上昇、収益DI値は28.6ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0ポイントの横バイとなっている。長期的にはインド等新興国の景気拡大による需要拡大に供給サイドが応える形で需給バランスが図られる見通しだが、米中はじめ経済動向の不透明さや中東情勢等にも

(石油等その他小売)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年7月~9月 に比べて	前期比 令和6年4月~6月 に比べて	来期見通し 令和6年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	-14.3	28.6	57.1
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-14.3	-16.7	0.0
④採算(収益)	0.0	14.3	28.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-28.6	-28.6	-14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-14.3	-14.3	0.0



<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	40.0	-42.8	-66.7	28.6	57.1
収益	20.0	-28.6	-66.7	14.3	28.6
総合	-40.0	-28.6	-66.7	-14.3	0.0

サービス業

売上DI値は0.0、前期実績(4~6月期-8.4)に比して8.4ポイントの上昇、収益DI値は-22.2、前期実績(4~6月期8.3)に比して-30.5ポイントの下降、総合判断DI値は-33.3、前期実績(4~6月期8.3)に比して-41.6ポイントの下降となった。

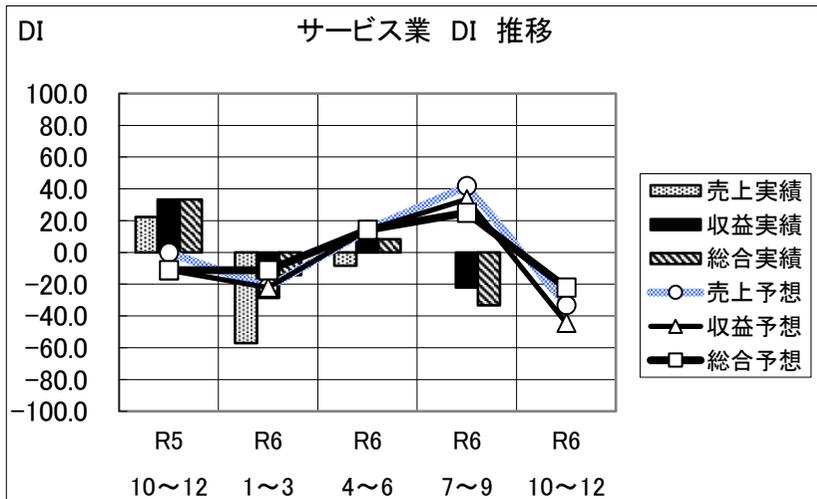
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-33.3ポイントの下降、収益DI値は-44.4ポイントの下降、総合判断DI値は-22.2ポイントの下降となっている。

サービス業

(DI 単位: %)

	前年同期比 令和5年7月~9月 に比べて	前期比 令和6年4月~6月 に比べて	来期見通し 令和6年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	22.3	0.0	-33.3
②製品・商品在庫	11.1	-11.1	-11.1
③資金繰り	0.0	-33.3	-22.2
④採算(収益)	-22.2	-22.2	-44.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	33.3	33.3	11.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-11.1	-33.3	-22.2



<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	22.3	-57.1	-8.4	0.0	-33.3
収益	33.3	-28.6	8.3	-22.2	-44.4
総合	33.3	-14.3	8.3	-33.3	-22.2

【旅館】

売上DI値は40.0、前期実績(4~6月期0.0)に比して40.0ポイントの上昇、収益DI値は-20.0、前期実績(4~6月期12.5)に比して-32.5ポイントの下降、総合判断DI値は-20.0、前期実績(4~6月期12.5)に比して-32.5ポイントの下降となった。夏季の最繁忙期だが対前年比で総合的に伸び悩んだ。7月は例年通りも、8月は南海トラフ地震臨時情報以降にキャンセルが相次ぎ、9月は地震への警戒感と猛暑の影響か数字が戻らなかった。団体利用よりも個人客が多い傾向が続く。

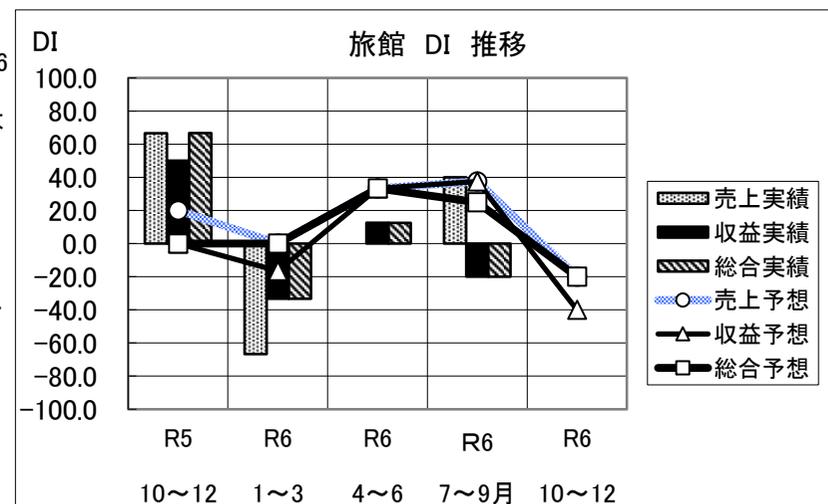
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-20.0ポイントの下降、収益DI値は-40.0ポイントの下降、総合判断DI値は-20.0ポイントの下降となっている。全般的には例年通り。忘新年会の予約状況は優れず、新型コロナ以降の利用形態が変化していると感じる。猛暑・暖冬の影響で紅葉等のツアーは低調。水族館リニューアルによるファミリー・個人利用に期待。

(旅館)

(DI 単位: %)

	前年同期比 令和5年7月~9月 に比べて	前期比 令和6年4月~6月 に比べて	来期見通し 令和6年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	80.0	40.0	-20.0
②製品・商品在庫	20.0	-20.0	-20.0
③資金繰り	40.0	-20.0	-40.0
④採算(収益)	20.0	-20.0	-40.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	60.0	60.0	20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	40.0	-20.0	-20.0



<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	66.6	-66.7	0.0	40.0	-20.0
収益	50.0	-33.3	12.5	-20.0	-40.0
総合	66.7	-33.3	12.5	-20.0	-20.0

運輸通信業

売上DI値は14.3、前期実績(4~6月期42.8)に比して-28.5ポイントの下降、収益DI値は14.3、前期実績(4~6月期28.6)に比して-14.3ポイントの下降、総合判断DI値は-14.3、前期実績(4~6月期0.0)に比して-14.3ポイントの下降となった。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は14.3ポイントの上昇、収益DI値は-28.5ポイントの下降、総合判断DI値は-28.6ポイントの下降となっている。

運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年7月~9月 に比べて	前期比 令和6年4月~6月 に比べて	来期見通し 令和6年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	14.3	14.3	14.3
②製品・商品在庫	16.7	-16.7	-16.7
③資金繰り	0.0	0.0	-14.3
④採算(収益)	-28.6	14.3	-28.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-14.3	0.0	14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	-14.3	-28.6

[旅客・貨物輸送・水運]

売上DI値は33.3、前期実績(4~6月期16.6)に比して16.7ポイントの上昇、収益DI値は33.3、前期実績(4~6月期16.6)に比して16.7ポイントの上昇、総合判断DI値は-16.6、前期実績(4~6月期0.0)に比して-16.6ポイントの下降となった。物流では経済・特に製造業の鈍さの影響で、貨物量が減少。また労働時間管理(残業規制)の強化で、人手不足感の解消が業界的な課題となっている。

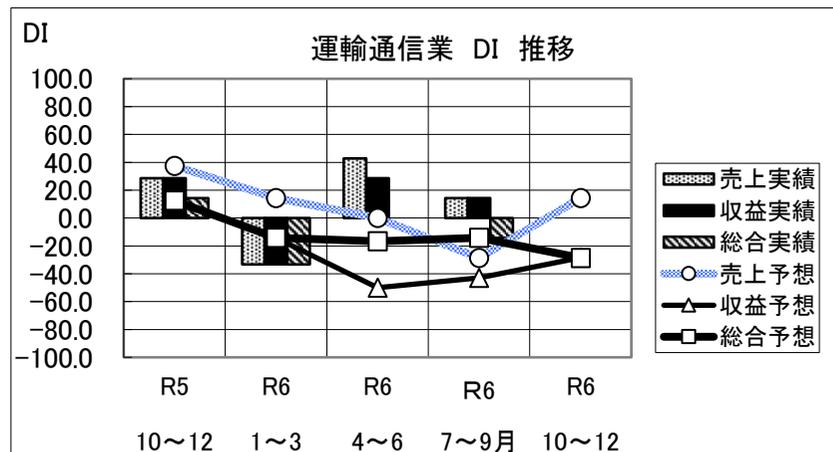
向こう3カ月の見通し

売上DI値は33.3ポイントの上昇、収益DI値は-16.7ポイントの下降、総合判断DI値は-16.6ポイントの下降となっている。物流の2024年問題の影響で運べる荷物の幅が縮小傾向。人手不足や労働時間管理などが構造的な業界の共通課題に、また昨今の商流全体の悪さを指摘する声もあつ

(旅客・貨物輸送・水運)

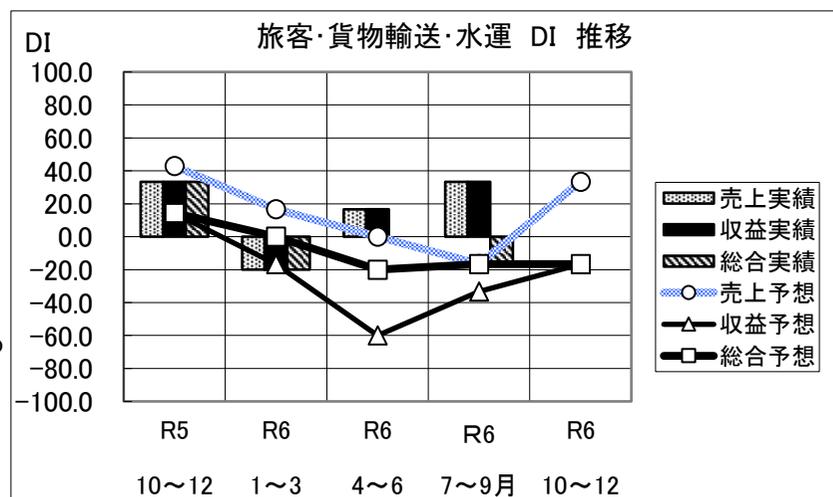
(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年7月~9月 に比べて	前期比 令和6年4月~6月 に比べて	来期見通し 令和6年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	33.3	33.3	33.3
②製品・商品在庫	20.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-16.6	33.3	-16.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-16.7	16.7	16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	-16.6	-16.6



<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	28.6	-33.3	42.8	14.3	14.3
収益	28.6	-33.3	28.6	14.3	-28.5
総合	14.3	-33.3	0.0	-14.3	-28.6

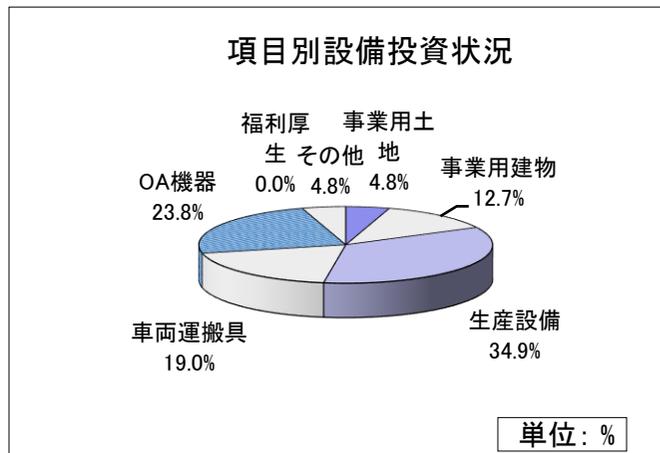
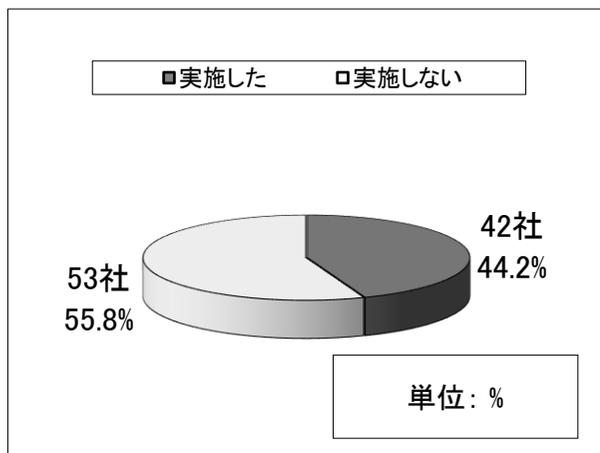


<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	33.3	-20.0	16.6	33.3	33.3
収益	33.3	-20.0	16.6	33.3	-16.7
総合	33.3	-20.0	0.0	-16.6	-16.6

7. 設備投資動向

＜今期 R6.7～9） 設備投資実施状況 全業種＞

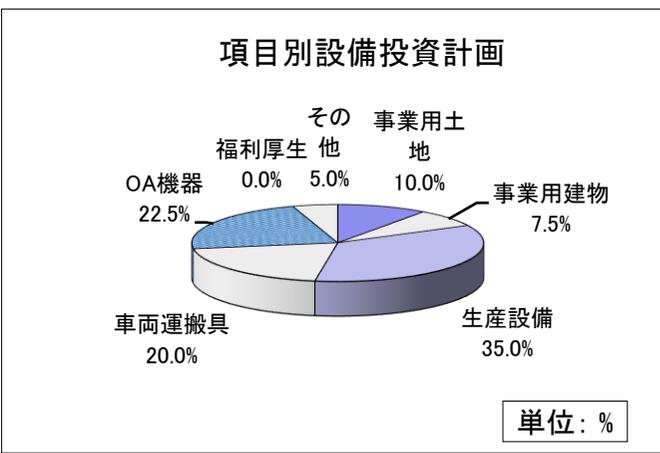
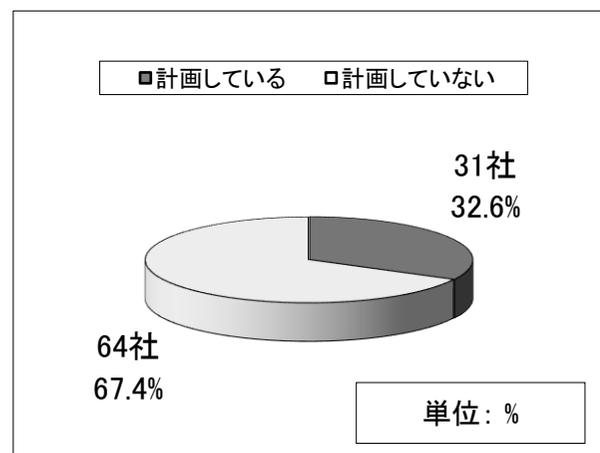


◎設備投資内容(全業種)

	今期
事業用土地	3
事業用建物	8
生産設備	22
車両運搬具	12
OA機器	15
福利厚生	0
その他	3
計	63

(単位:件)

＜来期 R6.10～12） 設備投資実施状況 全業種＞



◎設備投資計画内容(全業種)

	来期見通し
事業用土地	4
事業用建物	3
生産設備	14
車両運搬具	8
OA機器	9
福利厚生	0
その他	2
計	40

(単位:件)

◎今期・来期 設備投資実施、計画動向

		全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期	R6.7～9	42	21	3	4	6	4	4
2. 来期	R6.10～12	31	18	2	1	2	3	5

(単位:事業所)

8. 経営上の問題点

項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 94 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	43 45.7%
2	利幅の縮小	34 36.2%
3	原材料(燃料)高	28 29.8%
4	人手不足	20 21.3%
5	人件費の増加	19 20.2%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業 42 社	売上の停滞・減少 15 社 35.7%	利幅の縮小 11 社 26.2%	人手不足 9 社 21.4%
建設業 7 社	利幅の縮小 4 社 57.1%	売上の停滞・減少 3 社 42.9%	人手不足 3 社 42.9%
卸売業 12 社	売上の停滞・減少 7 社 58.3%	原材料(燃料)高 6 社 50.0%	利幅の縮小 4 社 33.3%
小売業 17 社	売上の停滞・減少 10 社 58.8%	利幅の縮小 8 社 47.1%	原材料(燃料)高 6 社 35.3%
サービス業 9 社	利幅の縮小 4 社 44.4%	人件費の増加 3 社 33.3%	原材料(燃料)高 3 社 33.3%
運輸通信業 7 社	売上の停滞・減少 6 社 85.7%	利幅の縮小 3 社 42.9%	人件費の増加 2 社 28.6%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域データ)

No. 104

番号	調査項目	単位	R6.11報告	基準日	R6.8報告	基準日	R6.5報告	基準日	R6.2報告	基準日	出典
1	人口	人	77,659	R6.10.1	77,769	R6.7.1	77,904	R6.4.1	78,140	R6.1.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳
	(うち外国人)		3,594		3,573		3,520		3,482		
2	世帯数	世帯	33,802	R6.10.1	33,779	R6.7.1	33,656	R6.4.1	33,593	R6.1.1	"
	(うち外国人)		1,839		1,820		1,761		1,723		
3	15才～65才生産人口	人	45,435	R6.10.1			45,534	R6.4.1	45,675	R6.1.1	"
	(うち外国人)		2,927				2,874		2,838		
4	全国完全失業率	%	2.9	R6.9月	2.6	R6.5月	2.6	R6.2月	2.5	R5.11月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%		R6.7～9	2.4	R6.4～6	2.0	R6.1～3	1.7	R5.10～12	愛知県 「あいちの就業状況」
5	全国有効求人倍率	倍	1.24	R6.9月	1.24	R6.5月	1.26	R6.2月	1.28	R5.11月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.67	R6.9月	0.60	R6.5月	0.70	R6.2月	0.68	R5.11月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 「ハローワーク 業務月報」

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶を除く前年同月比%)	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 (実質季節調整後系列前年比)	消費支出 (前年同月比%)	新車販売台数(登録車) (万台)
1996年度	225	3.5	0.72	11.4	1,630,378	528.8	2.9	1.0	-
1997年度	236	3.3	0.70	▲ 3.9	1,341,347	533.4	0.0	▲ 0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	526.0	▲ 0.9	▲ 0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	521.9	0.7	▲ 1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	528.4	2.5	▲ 1.2	-
2001年度	340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	519.2	▲ 1.7	▲ 1.7	-
2002年度	359	5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	514.9	0.9	0.1	-
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	517.7	2.0	▲ 1.0	588.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	521.3	1.7	0.4	582.1
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	525.6	1.0	▲ 0.4	586.2
2006年度	275	4.1	1.06	5.0	1,285,246	529.0	1.4	▲ 2.2	561.9
2007年度	257	3.9	1.04	2.3	1,035,598	530.9	1.2	0.9	532.0
2008年度	265	4.0	0.88	▲ 16.6	1,039,214	509.5	▲ 3.4	▲ 1.9	470.1
2009年度	336	5.1	0.47	▲ 15.4	775,277	492.0	▲ 2.2	▲ 0.2	488.0
2010年度	334	5.1	0.52	19.4	819,020	499.4	3.3	0.3	460.1
2011年度	284	4.5	0.65	4.2	841,246	494.0	0.5	▲ 2.2	475.3
2012年度	285	4.3	0.80	▲ 7.1	893,002	494.4	0.8	1.1	521.0
2013年度	265	4.0	0.93	10.6	987,254	507.3	2.6	1.0	569.2
2014年度	236	3.6	1.09	8.0	880,470	518.2	▲ 0.4	▲ 2.9	529.7
2015年度	222	3.4	1.23	▲ 1.2	920,537	532.9	1.3	▲ 2.3	493.8
2016年1月	215	3.2	1.28	▲ 11.3	67,815			▲ 3.1	23.7
(平成28年)2月	217	3.3	1.28	▲ 6.7	72,831	135.8	0.7	1.2	27.5
3月	214	3.2	1.30	9.8	75,744			▲ 5.3	40.4
4月	214	3.2	1.34	▲ 1.1	82,398			▲ 0.4	21.2
5月	212	3.2	1.36	▲ 7.3	78,728	134.2	▲ 0.1	▲ 1.1	22.3
6月	208	3.2	1.37	1.3	85,953			▲ 2.2	28.7
7月	201	3.1	1.37	▲ 4.2	85,208			▲ 0.5	28.1
8月	208	3.1	1.37	0.2	82,242	132.6	0.2	▲ 4.6	22.3
9月	202	3.0	1.38	▲ 4.5	85,622			▲ 2.1	31.7
10月	198	3.0	1.40	▲ 10.9	87,707			▲ 0.4	24.2
11月	200	3.1	1.41	24.5	85,051	141.6	0.2	▲ 1.5	27.3
12月	202	3.1	1.43	17.3	78,406			▲ 0.3	26.4
2017年1月	202	3.0	1.43	10.7	76,491			▲ 1.2	25.8
(平成29年)2月	192	2.8	1.43	▲ 0.7	70,912	136.2	0.8	▲ 3.8	31.2
3月	187	2.8	1.45	▲ 12.5	75,887			▲ 1.3	46.0
4月	187	2.8	1.48	▲ 0.2	83,979			▲ 1.4	22.4
5月	206	3.1	1.49	8.6	78,481	136.0	0.4	▲ 0.1	23.7
6月	190	2.8	1.51	3.4	87,456			▲ 2.3	31.5
7月	189	2.8	1.52	10.5	83,234			▲ 0.2	27.8
8月	185	2.8	1.52	19.7	80,562	135.7	0.8	0.6	23.3
9月	188	2.8	1.52	7.6	83,128			▲ 0.3	31.8
10月	184	2.8	1.55	12.3	83,057			0.0	23.1
11月	180	2.7	1.56	5.8	84,703	144.4	0.1	1.7	25.8
12月	181	2.8	1.59	▲ 6.6	76,751			▲ 0.1	26.2
2018年1月	164	2.4	1.59	8.7	66,358			2.0	24.3
(平成30年)2月	170	2.5	1.58	7.8	69,071	138.9	0.1	0.1	29.6
3月	172	2.5	1.59	▲ 2.8	69,616			▲ 0.2	43.8
4月	172	2.5	1.59	11.4	84,226			▲ 1.3	22.5
5月	155	2.2	1.60	15.3	79,539	137.9	0.4	▲ 3.9	23.6
6月	167	2.4	1.62	▲ 4.2	81,275			▲ 1.2	29.2
7月	170	2.4	1.63	11.3	82,615			0.1	28.1
8月	166	2.4	1.63	4.9	81,860	135.2	▲ 0.5	2.8	23.3
9月	161	2.3	1.64	▲ 5.4	81,903			▲ 1.6	30.8
10月	166	2.4	1.62	6.1	83,330			▲ 0.3	26.1
11月	169	2.5	1.63	4.0	84,213	144.4	▲ 0.2	▲ 0.6	27.9
12月	164	2.4	1.63	▲ 4.0	78,364			0.1	25.0
2019年1月	172	2.5	1.63	▲ 8.5	67,087			2.0	24.9
(平成31年)2月	160	2.3	1.63	▲ 3.7	71,966	138.8	0.3	1.7	30.0
3月	174	2.5	1.62	▲ 0.2	76,558			2.1	41.7
4月	168	2.4	1.63	▲ 6.0	79,389			1.3	23.0
(令和元年)5月	162	2.4	1.62	▲ 10.1	72,581	138.4	0.4	4.0	24.7
6月	161	2.3	1.61	0.9	81,541			2.7	29.0
7月	154	2.2	1.59	▲ 10.6	79,232			0.8	30.0
8月	154	2.2	1.59	0.9	76,034	136.8	0.2	1.0	24.2
9月	167	2.4	1.58	▲ 6.4	77,915			9.5	34.7
10月	166	2.2	1.58	▲ 8.8	77,123			▲ 5.1	19.2
11月	151	2.2	1.57	▲ 15.2	73,523	143.7	▲ 2.8	▲ 2.0	23.8
12月	145	2.2	1.57	▲ 7.9	72,174			▲ 4.8	22.6
2020年1月	159	2.3	1.49	▲ 0.8	60,341			▲ 3.9	22.1
(令和2年)2月	159	2.4	1.45	▲ 7.7	63,105	137.7	0.6	▲ 0.3	26.8
3月	176	2.5	1.39	0.1	70,729			▲ 6.0	37.4
4月	189	2.6	1.32	▲ 10.1	69,162			▲ 11.1	17.2
5月	198	2.9	1.20	▲ 20.9	63,839	126.9	▲ 7.7	▲ 16.2	14.7
6月	195	2.8	1.11	▲ 22.4	71,101			▲ 1.2	21.4
7月	197	2.9	1.08	▲ 17.9	70,244			▲ 7.6	23.9
8月	206	3.0	1.04	▲ 17.0	69,101	131.4	5.4	▲ 6.9	19.7
9月	210	3.0	1.03	▲ 1.5	70,186			▲ 10.2	29.3
10月	215	3.1	1.04	▲ 1.2	70,685			1.9	25.3
11月	195	2.9	1.06	1.3	70,798	143.4	1.8	1.1	25.3
12月	194	2.9	1.06	18.7	65,643			▲ 0.6	24.3
2021年1月	197	2.9	1.10	▲ 1.0	58,448			▲ 6.1	23.6
(令和3年)2月	194	2.9	1.09	39.8	60,764	138.6	0.4	▲ 6.8	26.2
3月	188	2.6	1.10	▲ 5.4	71,787			6.2	38.4
4月	209	2.8	1.09	14.7	74,521			13.0	21.0
5月	211	3.0	1.09	41.1	70,178	136.4	0.5	11.6	19.3
6月	206	2.9	1.13	35.5	76,312			▲ 5.1	23.4
7月	191	2.8	1.15	43.9	77,182			0.7	23.4
8月	193	2.8	1.14	20.6	74,303	136.2	▲ 0.4	▲ 3.0	20.6
9月	192	2.8	1.16	12.6	73,178			▲ 1.9	20.5
10月	183	2.7	1.15	28.3	78,004			▲ 0.6	17.8
11月	182	2.8	1.15	24.7	73,414	145.4	1.3	▲ 1.3	21.9
12月	171	2.7	1.16	17.6	68,393			▲ 0.2	21.8
2022年1月	185	2.8	1.21	20.0	59,690			6.9	20.7
(令和4年)2月	180	2.7	1.22	▲ 16.8	64,614	138.6	▲ 0.5	1.1	21.3
3月	180	2.6	1.22	14.3	76,120			▲ 2.3	32.7
4月	188	2.5	1.23	25.4	76,294			▲ 1.7	17.8
5月	191	2.6	1.27	13.2	67,193	138.4	1.1	▲ 0.5	16.1
6月	186	2.6	1.27	15.7	74,596			3.5	19.7
7月	176	2.6	1.29	4.8	72,981			3.4	21.4
8月	177	2.5	1.32	6.5	77,712	136.2	▲ 0.3	5.1	17.9
9月	176	2.6	1.34	7.9	73,920			2.3	24.2
10月	183	2.6	1.35	▲ 5.7	76,590			1.2	21.1
11月	182	2.5	1.35	▲ 4.6	72,372	148.5	0.4	▲ 1.2	22.1
12月	171	2.5	1.35	▲ 4.7	67,249			▲ 1.3	20.9
2023年1月	197	2.4	1.35	▲ 11.7	63,604			▲ 0.3	22.9
(令和5年)2月	194	2.6	1.34	▲ 1.5	64,426	145.5	1.3	1.6	26.9
3月	188	2.8	1.32	▲ 7.6	73,693			▲ 1.9	37.8
4月	188	2.6	1.32	▲ 12.5	67,250			▲ 4.4	21.9
5月	191	2.6	1.31	▲ 4.2	69,561	146.4	0.7	▲ 4.0	20.6
6月	186	2.5	1.30	▲ 8.1	71,015			▲ 4.2	25.9
7月	176	2.7	1.29	1.7	68,151			▲ 5.0	25.3
8月	177	2.7	1.29	▲ 8.9	70,389	145.2	▲ 1.1	▲ 2.5	21.3
9月	182	2.6	1.29	3.0	68,941			▲ 2.8	27.2
10月	175	2.5	1.30	▲ 2.9	71,769			▲ 2.5	24.3
11月	169	2.5	1.28	▲ 4.1	66,238	155.7	0.1	▲ 2.9	25.5
12月	156	2.4	1.27	7.3	64,586			▲ 2.5	23.2
2024年1月	163	2.4	1.27	8.9	58,849			▲ 6.3	21.6
(令和6年)2月	177	2.6	1.26	7.7	59,162	149.1	▲ 0.6	▲ 0.5	22.6
3月	185	2.6	1.28	23.7	64,265			▲ 1.2	30.3
4月	193	2.6	1.26	10.7	76,583			0.5	20.7
5月	193	2.6	1.24	14.5	65,945	149.5	0.7	▲ 1.8	20.1
6月	181	2.5	1.23	9.7	66,285			▲ 1.4	24.1
7月	188	2.7	1.24	2.2	68,014			0.1	26.3
8月	175	2.5	1.24	9.7	66,819			▲ 1.9	20.8
9月	173	2.4	1.24		68,548				27.4

(内閣府)

(国土交通省)

(内閣府)

(総務省)

(自販連統計)